事業所名: トウインクル保育園

令和元年度
東京都福祉サービス第三者評価

評価結果報告書

評価機関(機構07-172)
合同会社 福祉経営情報サービス

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <ol style="list-style-type: none">1) 子供にとっても親にとっても安心して信頼できる場所である為に、一人一人との関わりを重視している。2) 生活習慣と思いやりを大事にしている3) 限られた環境の中でも子ども達が楽しめる設定やイベントを企画している4) 職員の人間力を重視し大切にし、高めるようにしている5) 保護者の負担軽減により、ストレスのない育児をサポートする
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1) 職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none">・穏やかで暖かみがあり、子どもを尊重できる人・コミュニケーション能力の高い人・子どもから、親から、職員から憧れやお手本となるような人であり続けること <p>(2) 職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感）</p> <ul style="list-style-type: none">・現状に甘んじる事なく、常に向上心を持ち続けること

調査対象	保育園を現在利用している全世帯の保護者を対象に調査を行った。1世帯で複数名の子どもが通園している場合は1回答とした。 子供総数：19 家庭数：18
調査方法	・調査項目：東京都福祉サービス第三者評価の標準様式に準拠した。 ・事業所への報告：自由回答については匿名性への配慮を行った上で事業所に報告した。
利用者総数	19
利用者家族総数(世帯)	18
共通評価項目による調査対象者数	18
共通評価項目による調査の有効回答者数	15
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	83.3

利用者調査全体のコメント

総合的な感想では「大変満足」が71%、「満足」が29%であり、回答者全員が「大変満足」「満足」を選択している。総合的な感想の自由意見欄には「しっかり見て頂いたり、対応して頂いたりいつも助かっております。」「小規模保育園なので、保護者により寄り添った対応をしていただいております。」「お昼寝布団や食事エプロンの貸与からクリーニングまで、とにかく持ち物が少なく助かっています。」「保育がきめ細やかで、家族のような雰囲気です。先生方もとても親身になってくれる良い先生方ばかりで、子ども一人一人の好き嫌いなども把握されていて、本当に目が行き届いているんだなって思います。」などの回答があり、園の保育や保護者対応に対する謝辞や賛同の声が多く得られている。意見としては肯定的な意見の上で「可能であれば少し換気をしていただけたら」という回答があった。個別の設問では「はい」の回答率が総じて高く、「いいえ」の回答は、「外部の相談窓口の認識」を問う問17のみであった。

利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	15	0	0	0
回答者全員が「はい」を選択している。自由意見では「小規模な保育園で、保育者と園児が密に関わっていて、たくさんの愛情を受けていると感じます。」「先生方の愛情が子供たちにも、保護者にも、しっかり伝わっています。」「0歳の時から入園して心身共に大きく成長していました。」などの回答があった。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	15	0	0	0
回答者全員が「はい」を選択している。「子供は毎回とても楽しんでいます。」「毎日楽しそうに報告してくれたり、園で行ったことを繰り返し真似て遊んでいる。」「身近にあるものや、家でも出来ることはとても良いと思います。」などの回答があった。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	14	0	0	1
「無回答・非該当」を除く回答者全員が「はい」を選択している。「体調も考慮して対応して下さるので大変助かり、嬉しいです。」「家では食べない野菜も完食できているので、味や食感など工夫していただけてるのだから感じる。」「月齢に合わせて、そろそろこういう食事やおやつを提供していきたくて・・・と声をかけてくれます。いつも残さずに完食しているとの話なので、考えてくれているのだなと思います。」などの回答があった。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	15	0	0	0
回答者全員が「はい」を選択している。この設問に関する自由回答はなかった。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	13	0	0	2
「無回答・非該当」を除く回答者全員が「はい」を選択している。「とても助かります。快く受け入れて下さるので、お願いするのにもストレスやモヤモヤを感じることはありません。」「いつも、『気をつけてくださいね』と声をかけていただき助かっています。」などの回答があった。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	13	2	0	0
回答者の87%が「はい」を選択している。「安心して預けられると思います。」という回答があった。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	14	0	0	1
「無回答・非該当」を除く回答者全員が「はい」を選択している。「小規模で設備など色々と制限がある中で、可能な限り配慮して頂いていると感じています。」「保育参観などは候補日をいくつも挙げてくださるので、調整しやすい。」「保護者が参加する行事は少ないです。」という回答があった。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	15	0	0	0
回答者全員が「はい」を選択している。「お迎えの時に、いつも1日の様子を伝えてくれるので、その話を楽しく聞いています。」「連絡帳に悩みを書くと、子どもの園での様子や対応策等をお迎えの際や連絡帳で教えていただけるので、助かっています。」などの回答があった。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	13	2	0	0
回答者の87%が「はい」を選択している。「狭いながらもきちんと整頓されていると思う。」「小規模だからこそだとは思いますが、収納スペースやトイレ洗面スペースがもう少しあると良いなと感じます。」という回答があった。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	15	0	0	0
回答者全員が「はい」を選択している。「他の園と比べても、どの先生もきちんとした格好なので、子どもを預けるのに安心感があります。」という内容の回答があった。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	13	1	0	1
回答者の87%が「はい」を選択している。「熱が上がりそうな時は事前に連絡をしてくださるので、仕事の調整がしやすく助かります。怪我の時も冷やしたりと対応していただけているので、安心しています。」という回答があった。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	9	0	0	6
「無回答・非該当」を除く回答者全員が「はい」を選択している。「先生の仲裁の真似を家でよくしているが、参考になる。」という回答があった。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	15	0	0	0
回答者全員が「はい」を選択している。「お迎えの時の話や、他の子の様子を見ていて、個人を大切にしていると感じます。」「とても大切にしてくれてと思います。」「イヤイヤ期で大変な時期でしたが、子どもの気持ちも大切に考えてくれました。」などの回答があった。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	11	2	0	2
回答者の73%が「はい」を選択している。この設問に関する自由意見は特になかった。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	15	0	0	0
回答者全員が「はい」を選択している。この設問に関する自由意見は特になかった。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	11	1	0	3
回答者の73%が「はい」を選択している。「細かいところまで配慮頂いていると感じており、特に不満を感じたことがなく、対応をお願いしたいことがこれまでありませんでした。」などの回答があった。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	5	3	2	5
「はい」の選択は回答者の34%であった。この設問では「無回答・非該当」も多く、「無回答・非該当」を除くと「はい」の選択は50%となる。この設問に関する自由意見は特になかった。				

I 組織マネジメント項目（カテゴリ1～5、7）

No.	共通評価項目	
1	カテゴリ1	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況
	7/7	
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している	
	評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている
	○非該当	
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている
	○非該当	
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている	
	評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている
○非該当		
●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	
○非該当		
評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している		
評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	
○非該当		
●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	
○非該当		
●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えていく	
○非該当		
カテゴリ1の講評		
保育の理念を明確に持ち、理念の実現、実践のための周知・浸透がされている 園のコンセプトとして、「キラキラと輝く瞳のために」を掲げており、「キラキラした好奇心を失わせたくない」という思いのもとで園運営がされている。理念や方針は職員の入社時に伝えられ、また、適宜、具体的な内容を併せて園長から伝えられており、子どもへの接し方や保護者への接し方、言葉や態度、配慮事項などが理念に基づき日常的に周知されている。年度の方針や取り組み事項などは4月の社員ミーティングで周知されている。保護者には入園のしおりと入園前の面談で周知されている。		
各役職の役割・責任を明確にして、良好なチームワークの中で園運営がされている 園長、主任、副主任がリーダー層として、各自役割を担い園運営がされている。役割責任については権限委譲がなされており、主任は保育や職場全体を統括している。職員は現場のことはまず主任に聞き、解決できないときは園長に確認することになっている。副主任は主任と一緒に考え、主任業務をサポートしている。園長は園運営を統括し、園の保育を理念を持って推進している。また、保育の現場に職員と一緒に入り、援助や振る舞いなど、自分自身も気を付けることで保育者のあるべき姿を自ら示すことを心がけ、日々の保育・運営にあたっている。		
職員同士の仲が良いことを大切にしており、園運営は職員同士で話し合い決定されている 職員同士の「仲が良いこと」を大切な価値観として持っている。園運営も役職に関わらず、職員皆で話し合って決定しており、財務以外のすべてについて職員間で話し合って決定している。全体ミーティングを月1回開催しており、パート職員も全員参加している。会議は昼の時間帯に実施しシフトに入っていないパート職員も参加してくれている。小規模園であり、職員同士が顔を合わせて情報共有しやすい環境がある。社員ミーティングでは職員の小さな悩みなども相談ができているとのことであり、良好な組織風土が形成されているように推察された。		

2 カテゴリー2		
事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	☐ 非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(00●)
評価	標準項目	
☐ あり ☒ なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	☐ 非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	☐ 非該当
カテゴリー2の講評		
<p>保護者の意向や職員の意見・提案を確認・把握して園運営の参考にしている</p> <p>園で使用するオムツや口拭きタオル・手拭きタオルは園で用意しているなど、保護者支援が充実している園である。サービス内容の検討をする際には保護者からアンケートを取って意向の把握に努めており、今年度はオムツについて保護者の意向を確認している。また日々の会話や連絡帳を通じて個々の意向などの把握に努めている。</p> <p>職員の意向は個別面談や毎月の社員ミーティングで得られており、園運営についての意見や提案などがされている。今回の職員自己評価からも職員も園のことを親身に考えてくれているように推察された。</p> <p>地域や保育に関する情報は関係機関などから得て、内部環境を踏まえ経営判断をしている</p> <p>福祉の動向や地域、地域の保育ニーズ等に関する情報は、区や年に3、4回開催されている小規模保育園連盟の会議、年に4、5回開催される小規模保育園の連絡会などから得ている。小規模保育園連盟の会議では運営に関する情報交換のほか、研修なども実施されており、運営に役立つ情報が得られている。税理士からは財務や経営状況のアドバイスを得ており、園の財務状況を踏まえ、職員の意見をよく聞き、職員の納得と同意を重視して取り組むべき課題や運営の方向性などが決定されている。</p> <p>ビジョンを伝え、職員の意見を聞いて事業計画が策定され、実行されている</p> <p>長期的な展望やビジョンなどは職員に周知されている。設備や休憩場所、保育室の充実等の環境面から今後の運営の在り方までオープンに話し合わせ、周知がされており、情報共有の上で職員からの意見や提案がされている。年度の重要課題と実施事項は事業計画書に記載されており、30年度であれば保護者支援の一環としての負担軽減化や卒園後の連携先の確保などを掲げ、計画的に課題の解決に取り組んでいる。</p>		

3 経営における社会的責任			カテゴリ-3	
サブカテゴリ-1(3-1)				
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2	
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる			○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している			○非該当
サブカテゴリ-2(3-2)				
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4	
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている			○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある			○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している			○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている			○非該当
サブカテゴリ-3(3-3)				
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5	
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる			○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している			○非該当

評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当
カテゴリー3の講評		
<p>保育園の仕事をやる上で大切なことは園長から適宜、職員に伝えられている</p> <p>職務の規範などは就業規則により周知している。就業規則の服務規律には情報管理やWEBの利用、セクハラ、パワハラ、マタハラなども盛り込み適宜改定して職員に伝えている。園長からは毎月の全体会議において、期待する人材像のほか、職員同士や子どもとの関係性等について周知することになっている。園全体を「ひとつの家」として職員同士が仲良くすることや向上心を持つことなど、仕事をやる上での心構えを伝え、子どものことを常に思う事、子どもは大人の言動を吸収することから、保育環境としての言葉や態度についてなどを伝えている。</p> <p>苦情解決制度は保護者に周知されており、また、虐待防止の体制がある</p> <p>苦情解決制度については契約書に記載し、同意を得ている。また、園の玄関に受付担当者、責任者、第三者委員(民生委員)の連絡先までを明記して掲示している。</p> <p>虐待対応についてはマニュアルが整備され、連携先が明記されている。虐待発見時の通知等については園のしおりにも記載して保護者にも伝えられており、虐待と疑われる事例があるときは、日々の確認のほか、記録し関係機関に相談する体制がある。外部機関が開催する虐待関連の研修には適宜職員が参加し、受講したときは会議の時などに報告し、また、園内でも適宜研修をすることになっている。</p> <p>地域のお祭りへの参加のほか、地域の人達への本の貸し出しなどを行なっている</p> <p>町内会に加入しているため、地域のお祭りに参加しており、交流が図られている。また、外から園舎内が見える構造であり、地域の人から気軽に声をかけてもらえる環境がある。</p> <p>地域にある通所介護施設との交流では利用者を夏まつりに招待されたり、敬老の日に園に招いて歌を披露している。また、ハロウィンの時に訪問して交流したり、クリスマスには利用者がサンタ役で来訪してくれているなどの交流も行われている。地域には絵本の貸し出しも行っており、園の前に設置しているボード(黒板)に本の貸し出しについて記載し、近隣に周知している。</p>		
カテゴリー4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇●)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
○あり ●なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当

サブカテゴリ-2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 3/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(○○●)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
○あり ●なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ-4の講評		
<p>災害対応や感染症予防等については、手順書や訓練、現場での対策などが実施されている</p> <p>防災面では地震対応マニュアルが作成されており、手順が明記されている。また、消防計画が作成され、避難場所と緊急連絡方法、災害時の保護者、職員の連絡方法、帰宅困難者の対策などが明示されている。避難訓練では引き渡し訓練も計画的に実施している。また、BCP(事業継続計画)は作成していないが、水害避難(確保)計画が作成されている。感染症予防では衛生管理の徹底をしており、毎日の玩具の消毒などを実施している。</p> <p>園内の点検を丁寧に行い、事故予防を最優先課題として安全性の確保に取り組んでいる</p> <p>安全点検では玩具の点検は毎日実施し、絵本も月1、2回の点検をしている。遊具も月2回、施設安全点検は週に1回実施しており、細かな箇所についても点検が実施されて、安全性の確保に取り組んでいる。</p> <p>乳児園であるため、事故予防を最優先課題と位置づけ、ヒヤリハットの収集と活用のほか、睡眠時チェックは特に注意を払って実施している。ヒヤリハットの記録は平成29年度以降実施しており、毎月ヒヤリハットを収集し、対応策、改善策を検討している。子どものけがについても記録をして予防につなげている。</p> <p>個人情報など、重要な情報についての保護と管理がされている</p> <p>情報の管理については就業規則に簡単な記載がある。ICTの活用をしており、登園管理システムなどには必要なアクセス制限を施している。重要書類は安全な場所で鍵付きの書庫を用いて保管、管理しており、情報の保護と管理がされている。</p>		
カテゴリ-5		
5	職員と組織の能力向上	
サブカテゴリ-1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 10/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(●●)
評価	標準項目	
○あり ●なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
○あり ●なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当

評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(0000)
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	☐ 非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(0000)
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金・昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	☐ 非該当
サブカテゴリー-2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準项目实施状況
		3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(000)
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	☐ 非該当
カテゴリー5の講評		
人事制度を整備し、職員の定着・育成に取り組んでいる 採用については区の就職フェアなどにも参加して積極的に取り組み人員の確保ができています。人事評価を実施しており、園の職員としての必要なスキルや姿勢がわかりやすく記載された自己評価表で自己評価を行ない、人事評価後に主任の評価も参考にして園長が面接をし、評価結果を職員にフィードバックし、個々の成長と育成につなげている。面談の結果は次期の研修受講などの参考にしており、今後さらなる活用も視野に入れ、整備を進めている。		
研修計画を立て、外部研修は職員に積極的に受講してもらっている 研修計画は毎年度作成している。外部研修の受講は救命講習等は順番で参加させているが、基本的には役職などを考慮して個別に決定して参加してもらっており、キャリアアップ研修のほか、子育て支援、保護者支援、食育、アレルギー、療育、虐待、危機管理、保育指針などの研修受講実績がある園内では虐待、子どもの遊ばせ方、ケンカの対応、連絡帳等のテーマで適者が講師となって研修を実施している。研修後には報告書を提出し、全体会議において発表して園全体で情報共有をしている。		
休暇取得のしやすさなど、職場環境の向上に取り組み、テレワークなども導入している 職員の誕生日祝い等、職場の関係づくりの一助になる取り組みを実施している。有給休暇については管理表を作成し、また、給与明細に消化日数と残日数を明記して職員がいつでも把握できるようにしており、消化を促している。職員意欲の向上に関する取り組みとしては、職員各自が保育内容を提案して実施する「レッツチャレンジ」を実施している。		

7 カテゴリー7	
事業所の重要課題に対する組織的な活動	
サブカテゴリー1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)	
保護者支援の充実化を図るべく保護者負担の軽減を目的として、「手荷物の軽量化」を目標として取り組んだ。具体的には毎月持参してもらっていたおしりふきとビニール袋の持参回数を減らすこと、登降園管理システムの導入を行っており、その結果、持参に伴う保護者負担の軽減、登降園時の時間の大幅短縮が実現できた。また、システム導入により延長保育料金の納入手続きが簡単になり職員の業務効率化にもつながった。今年度は保護者負担の軽減について継続し、「オムツを完全無償化」「毎日のタオル類の持参廃止」を実行し、園でオムツと手拭き口拭きタオルを用意し負担する事にした。	
目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評	
取組は事業計画の実施内容として記載され、計画的に実行されて成果が生まれている。「保護者負担の軽減」については、持参するものを前年度、今年度と減らしており、おむつなどは園で費用負担をしている。出費を伴う改善を実施し、一方でICT導入による業務効率化も達成しており、経営判断をして計画的な園運営がされている。	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

3歳児からの預け先の不安という乳児園ならでのデメリットを解消する為、卒園後の連携保育園の確保を目標とした。地域の各保育絵園への調査と交渉を行ない、並行して区役所に相談し、紹介を得ることに取り組んだ。その結果、卒園児8名の受入れ先について半数以上の連携保育園が確保出来た。今年度は継続して重要課題として取り組み、残りの人数分の受入れ先の確保を達成し、連携保育園との契約と保護者への周知を図ってゆく計画となっている。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていない
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> ☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> ☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

取組は事業計画の実施内容として記載されている。乳児園としてのデメリットの解消は、小規模保育園、乳児園のメリットの拡大に直結する取り組みであり、保護者の不安を解消し、ニーズを捉えた取り組みといえる。今年度の計画実行により連携園の確保に見通しがついており、園の環境を捉えて計画的に実行し成果が生まれている。

II サービス提供のプロセス項目（カテゴリ6-1～3、6-5～6）

No.	共通評価項目		
サブカテゴリ1			
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	☐ 非該当	
サブカテゴリ1の講評			
<p>ウェブページではブログも活用して、広く活動の様子や子どもの姿を伝えている インターネットで園のWEBページを公開している。ホームページには子どもたちの活動の姿を大きな写真で掲載し、園の特徴や、給食、保護者の負担を考慮したサービス内容などにアクセスしやすい構成で公開されている。園で生活する子ども達の様子はブログで掲載し、新しい情報を加えて更新しており、ブログでは子どもや保育者の豊かな表情を見ることができる。サイトを閲覧することで園のイメージがしやすいページとなっている。</p> <p>園の様子や特徴が伝わるようパンフレットを新たに作成する等、周知に取り組んでいる 区には空き状況を毎月提供し、区のホームページに掲載されている。今年度リニューアルした園のパンフレットには園の取組や年間行事、園の生活などが、子どもと保育者の笑顔の写真付きで案内されており、わかりやすく、また、楽しく過ごしている様子や園で大切にしている保育が伝わってくるようなイメージで作成されている。パンフレットは役所や園に置き、希望者に配布している。</p> <p>見学希望には個別に対応し、園長から園の概要や保育について説明がされている 園舎は通りに面し、ガラス張りの為、通りがかりの人も気軽に園内の様子や子ども達の様子を見る事ができる。見学の問い合わせがあったときは個別に見学の対応をしている。見学はスペースの都合もあり、通常、13時～15時の在園児が昼寝をしている時間帯に0歳児の生活スペースを使って行き、園長が園の概要や理念、保育で大切にしている事等を説明することになっている。また、園児たちが活動している場面が見たいときは、その都度、希望に合わせ対応している。</p>			

サブカテゴリ-2		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	6/6
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		○非該当
サブカテゴリ-2の講評			
<p>保護者個々に面談して入園前の説明と聞き取りを行い契約をしている</p> <p>新入園児に対しては3月に個別の入園前面談を1人30分程度の時間をかけ行っている。面談では園の重要事項(契約書に書かれている内容)を説明し、子どもの様子や家庭からの要望などを聞き取っており、内容は面談票に記録して児童調査票のファイルに綴じて保管している。契約書内容については同意を確認し、その後に契約となる。</p> <p>入園前の状況を記録と面談で把握し、円滑に登園が開始できるよう準備をしている</p> <p>子どもの発達や健康状態、家庭の状況など保護者が記入した書類と面談票の記録を確認し、共有して受け入れの準備を整えている。登園開始直後は子どもが徐々に新しい生活に慣れるように慣らし保育を実施し、不安が軽減されるよう配慮している。慣らし保育は保護者の就労状況や子どもの様子によって個々に期間を調整しているが、通常であれば1週間を目安に行われ、初日は1時間、2日目は給食まで、3日目は午睡まで、と徐々に時間を延ばしている。開始直後は特に保護者との会話を十分に行なって、子どもの様子を伝えあうことを心掛けている。</p> <p>卒園後の移行については、子どもと保護者に細やかな配慮をして支援をしている</p> <p>子どもが卒園後に移行する保育園には保育経過記録を渡して引継ぎをしている。また、卒園して新しい園へ入園したときに子どもが困らないように「ステップアップ設定保育」を行っており、ボタンかけや洋服たたみ等、自分のことは自分ででき、自分の想いを話せるように、保育者が子どもに1対1で関わり、子どもに教えている。保護者には連携園の紹介をしたり、新しい園へ入園するにあたり悩みごとの相談対応などを行っている。</p>			

サブカテゴリ-3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 12/12
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	○非該当
評価項目3 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○非該当

サブカテゴリ-3の講評	
<p>職員全員で話し合い、子どもの状況を把握し、共有して、個々の計画が作成されている</p> <p>子ども個々の状況は保育過程記録に記録している。入園後の保護者の意向や家庭の状況などは、毎日の連絡帳を参考に把握することになっている。また、日々の子どもの姿から発達や心身の状況を考察し、計画期毎の保育指導計画を作成して保育が実施されている。子ども個々の様子や保育の振り返りは、園長以下、全職員が参加する毎月の全体会議で実施し、翌月の計画と目標設定につなげている。会議にはパート職員もシフトに入っていない職員も参加しており、職員全員で個々の子ども全員を共有して保育が実施されている。</p> <p>子ども個々の保育計画を細やかに作成し、職員間で共有している</p> <p>全体的な計画に基づき、各年齢の担当が年齢ごとの年間カリキュラムを作成している。月間指導計画は年齢別、個別に作成され、個別の計画ではねらいと配慮事項が子ども一人ひとりに対して細やかに立てられている。また、年齢別に遊びの週間計画も作成されている。子ども個別の月目標は園内に掲示し、職員全員が子ども全員のその月の目標をいつでも確認することができるようにしている。保護者には、毎月の園だよりの中で子どもの様子や年齢にあった保育や子育てのトピックを伝え、子どもの姿に照らして園の保育で大切にしていることを伝えている。</p> <p>日々の子どもと家庭の状況を記録し、毎日の申し送りにより職員間で共有している</p> <p>毎日の保育については保育日誌に記録され、主任、もしくは副主任が反省事項を記入し、園長が内容確認をしている。申し送り事項については朝、夕のおやつ後に、勤務する職員全員で確認している。申し送りは口頭のほか、引き継ぎノートを活用し、漏れがないよう留意している。引き継ぎノートは出勤してきたら必ず目を通すことになっており、押印による閲覧確認がされている。</p>	
サブカテゴリ-5	
5	<p>プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重</p> <p style="text-align: right;">サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5</p>
<p>評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇)</p>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている
<p>評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている
サブカテゴリ-5の講評	
<p>子どものプライバシー保護に配慮している</p> <p>子どもの写真を外部で使用することについては契約書に記載して同意の確認をしており、巡回相談などで情報を提供するときには保護者から口頭で同意を得たうえで行なっている。</p> <p>保育の現場では、おむつ替えの際の衝立を使用することなどに気を付け、おむつ替えの場所の配慮、お漏らしをしてしまった子どもに対する声掛けなど、子どものプライバシーや気持ちに配慮した対応がされている。</p> <p>言葉や態度については職員全員が気を付けるよう、日常的に周知し浸透させている</p> <p>言葉や態度については、子どもに与える影響もあるため、注意して丁寧な言葉遣いや態度で接するように日頃から職員に周知して浸透させている。保育中は保育者全員が子どもの気持ちを汲み取り、子ども一人ひとりに対する丁寧な関わりが見られた。</p> <p>朝、夕の保護者との会話や、連絡帳、面談などを通じて、家庭の様子や保護者の価値観などを理解し、家庭での状況に応じられるよう心がけている。</p> <p>例えば、日本語をあまり使用していない家庭への配慮では園でもその国の言葉を用いて意思疎通を図るなど、細やかな配慮なども実施</p> <p>虐待対応などについては外部の研修を受講し、その内容に基づき園内での周知をしている</p> <p>虐待防止や育児困難家庭の対応については区から配布されたマニュアルを園に置き、内容を共有するとともに、外部の研修に参加し、受講した研修内容について園内研修で再度研修を行う等で職員全体に周知し、理解と浸透を図っている。</p>	

サブカテゴリ-6		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	4/5
6	事業所業務の標準化		
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(○○●)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○	非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○	非該当
○あり ●なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○	非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(○○)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○	非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○	非該当
サブカテゴリ-6の講評			
業務手順を定め、職員間で共有して業務、サービスを標準化している 嘔吐処理や薬の預かり、アレルギー対応、感染症予防対策、衛生管理などについて園で手順を決め、全体会議などで共有している。また、園内研修や訓練により安全点検や危機管理、不審者対応・応急処置等の手順や方法を共有している。業務手順や方法について、変更が必要な時には現場の実施状況を確認し、その都度、園長と主任・副主任で話し合い内容の見直し、変更をしている。例えば薬の預かりについては、手順は現場で共有しているがマニュアル化していないため、文書化、マニュアル化を望みたい。			
保育実施面や保護者支援等の実施事項を毎年度振り返り、改善・向上に取り組んでいる 保育に関しては計画を振り返り、年間の反省から次年度に向けての見直しを行っている。また、保育環境については次年度に向け、子どもの入園状況によって保育室の区分けの仕方などの見直しを行っている。 保護者支援のサービスについても毎年見直しを行い、今年度からおむつや口ふきなどを園からの提供に変更している。また、園で購入するおむつなどのメーカーを決める際は保護者にアンケートを取り、保護者の意見を参考に決定しているなど、保護者の意向を参考にし改善に取り組んでいる。			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

		サブカテゴリ4	
サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 34/34	
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている		評点(00000)・非該当1	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけができるよう、環境を工夫している	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当	
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当	
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当	
○あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	●非該当	
評価項目1の講評			
<p>主体的に行動できる環境を整えることに努め、行動を促し見守る声掛けがされている</p> <p>少人数保育と、ワンフロアでの保育の特徴を生かし、子ども達一人ひとりの様子を職員間でしっかり共有し、連携しながら保育を行っている。玄関には靴を自分で出し入れしたり、履いたりできるような環境の工夫があり、また、自分で自分の椅子がわかるように環境を整え、自分の椅子を出したり、しまう経験などもできるような環境にしている。保育者の子どもへの関わりは、子どもが自ら行動したくなるような促しや子どもの行動を見守るような働きかけがされている。</p> <p>異年齢児同士の交流の時間をもち、年上児、年下児への興味や思いやりが生まれている</p> <p>朝、夕は1・2歳児が合同保育を行い、異年齢児と関わる機会が設けられている。また、朝の会や何か集まりがあるときには全学年の子ども達が一緒に会に参加している。合同保育の時には0歳児が年上児の行っている活動に興味を示したり、また、0歳児と一緒に参加している時には年上児が0歳児に興味を持ち、身体に触れたり、トントンしてあげる姿が見られるとのことだった。</p> <p>発達支援や子育てアドバイザー研修などを職員が学び、現場での対応が行われている</p> <p>発達が気になる子どもについては、年に2回、区の支援センターの巡回を受け、様子を見てもらい関わり方のアドバイスを得て、他児と同じ活動を楽しむことができるよう配慮し対応している。発達の支援や保育の仕方、接し方などについては外部研修も受講して、職員間で共有し実践している。子どものケンカやトラブルについては子育てアドバイザー研修を受けた職員が中心となり、園内研修を行い職員全体で学んでいる。現場視察時にトラブルが発生した時には、声掛けにより、トラブルはすぐに収まり、お互いに気持ちに折り合いがついている様子であった。</p>			

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(0000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当
評価項目2の講評		
<p>家庭と子どもの状況や家庭に伝えることを職員全体で共有している 早番は主任が担当して、毎日、子どもの受け入れを行なっている。受け入れ時は口頭で家庭での子どもの様子を保護者から確認するとともに連絡帳により確認を行っている。また、降園時には必ず一人ひとりに直接園での様子を伝えるよう留意し、家庭から得た情報と家庭に伝える内容は朝夕の申し送り時に、職員全員で確認して共有している。</p> <p>生活習慣の支援は家庭と話し合い、意向を踏まえながら進めている 0歳児の離乳食は、家庭で実際食べている1回分の量を園に持参してもらい、形態や量を家庭と共有したうえで進めている。また、離乳の段階をあげるときにも保護者の意向を聞きながら進めるようにしている。トイレトレーニングは年齢で始めるのではなく、子どもの様子を見たり、保護者の意向を聞きながら家庭と足並みをそろえ進めることにしている。また、登園時間が遅く、給食の時間におなかがすかない子どもの場合は、保護者に生活リズムを整えるように促すなど、生活習慣については家庭と協力し、必要に応じ促しつつ進めている。</p> <p>午睡は年齢によって必要な時間を考慮して行い、その時の子どもの状況に対応している 午睡は年齢によって入眠時間をずらし、各年齢に必要な睡眠時間を考えながら実施している。早く目覚めてしまった子どもや寝付けられない子どもへは静かに見守りながら絵本を見たり、保育者のそばで過ごすようにしている。室内環境については、午睡中に眠れない子どもや早く目が覚めてしまった子どもが、ほかの子どもを起こさずに退屈しないで遊べる環境を整えてゆく意向があり、今後の対応が期待される。</p>		

3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当
評価項目3の講評		
<p>園内でも様々な体験ができるよう今ある環境を活用し、工夫をしている</p> <p>園舎前のウッドデッキでは、夏のプール、ブランコ、シャボン玉遊びなどをしており、外気に触れる環境を整えている。また、プランターでの家庭菜園やテーブルを出しおやつを食べる等、子ども達にさまざまな経験をさせている。家庭菜園は当番が水やりを行い、成長の観察なども行っている。当番活動はそのほか、2歳児は朝の会や帰りの会での挨拶や、給食時の配膳の手伝いなどを行っている。当番活動を通じ自信や責任感などを育てている。</p> <p>物を大切にすることや約束を守ることを活動の中で身につけられるよう配慮している</p> <p>1歳児に進級したら粘土、粘土板、粘土べら、お絵描き帳、クレヨン、2歳児に進級したらハサミ、マーカーを支給し自分の物として使用している。これは物を大切に、自分の物をきちんと片付けることを身に付けさせたいという思いから実施されている。2歳児は卒園に向けて約束ノートを作り、毎日全員で共通の約束事を決め、約束事が守れたらシールを貼る楽しみも加えて、約束を守ることへの意識づけをしている。</p> <p>季節や目的に応じてさまざまな公園に出かけ、外気に触れ、体を動かしている</p> <p>天気の良い日には公園へ行き、外気に触れ、身体を動かして遊んでいる。近隣にはさまざまな公園があり、季節や目的によって行く場所を選んでいる。子どもたちが普段使う公園は、玄関に掲示されているお散歩マップに記載されており、どんな公園で遊んでいるのかわかりやすい。</p> <p>近隣の農園にて、2歳児が芋ほり体験を楽しんでいる。掘ってきた芋は葉っぱ付きで園に持ち帰り、園でプランターに植えなおし、年下児にも園で芋ほりの体験をさせてあげている。</p>		
4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>季節ごとに行事は、子どもが楽しめ、さまざまな体験ができるよう考慮して行われている</p> <p>七夕会や夏祭り、敬老触れ合い交流、運動会、クリスマス会、豆まき・ひな祭り等、季節に合わせてさまざま行事を実施している。各行事ではその内容に合わせ、保育者が披露するパネルシアターを見たり、園外の大人と触れあったり、ゲームに参加したり、製作をしたり、表現遊びをしたり、運動遊びをしたりと、色々な経験をしている。行事は年齢に合った内容を工夫して、無理なく、子ども達が十分に楽しめる内容で実施している。</p> <p>子どもたちが行事を楽しみにできるような導入をして行事を実施している</p> <p>行事を実施する際は、各年齢に応じた導入や製作を考えて行っている。その行事に関する製作物を作成することで子ども達は行事に参加することを楽しみにする姿が見られるとのことであり、2歳児になると行事の準備の手伝いもできるようになる。</p> <p>相撲大会は0歳児から子ども全員が参加しており、全員で相撲を取って楽しんでいる。2歳児は負けたことを悔しがり泣く姿も見られる一方で、このような行事の様子は園で運営しているブログの記事でも見ることができる。</p> <p>行事は保護者に協力してもらっており、行事の内容はブログなどで保護者に伝えている</p> <p>基本的に保護者参加の行事はなく、保護者には行事の内容を事前に説明し、衣装合わせなどに協力してもらっている。園からは子どものやる気につながるよう保護者に働きかけており、また、遠足の時はお弁当を作ってもらうなど、行事に保護者の協力を得ている。また、行事の様子はブログや園だよりで保護者に伝えている。</p>		

5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>長時間保育の子どもが安心でき、寂しい思いをしないよう人員配置などの配慮をしている 朝は毎日主任が配置され、同じ職員に受け入れをしてもらうことで子どもも保護者も安心して登園ができる。また、夕方も専任の保育者を配置している。 朝、夕は合同保育を行い、異年齢の友達や担任以外の保育者と関わることで子どもがさみしい思いをしないよう配慮し保育を行なっている。最後に残った一人、二人の子どもには、さみしくさせないような保育の仕方を工夫したいと考えている。</p> <p>子ども達が楽しめる時間を作りたいという想いで夕方の設定保育を行っている 17時から17時30分まではゲームや少人数の時にしやすい遊びなどの設定保育を行い、活動にメリハリをつけ子どもが楽しめるように配慮している。補食は19時以降、園にいる子どもに対して準備するが、延長保育の利用はなく、ほとんどの子どもが18時前に降園するため、補食の利用はなされていない。</p>		
6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
評価項目6の講評		
<p>子ども一人ひとりに丁寧に関わって食事の介助をしている 0歳児の食事では、低月齢の子どもは保育者に抱っこされ1対1で、他の2人もテーブル付きの椅子に腰かけ保育者が関わっている。途中で動き出してしまったときには抱き方を変えたり、気持ちを落ち着かせるなど、関わり方を工夫しながら食事をしている。 給食ノートには喫食状況を記入し、毎日子どもの給食の食べ具合を確認している。職員会議では給食時の子どもの様子を共有し、その姿や保育者の話から、切り方や食べやすさを考慮している。</p> <p>食事に対する興味を高め、子どもたちの楽しみとなる給食を提供している 給食を食べ始める前には調理者が子どもの前でその日の献立を一品一品紹介して食の興味を高めている。献立は季節や行事によって内容を考え、行事食や、季節を感じる食事を提供している。リクエスト給食では卒園する子どもに話を聞いたり、保護者にアンケートを取り、子どもの楽しみとなる献立を検討して提供している。献立には和食を多く取り入れ、調理時間がかかり、家庭では提供しなくなってきている煮物などは保護者に喜ばれているようである。</p> <p>子どもたちは家庭菜園で様々な野菜を育て、いろいろな料理を作り食べる経験をしている 家庭菜園ではピーマンやトマト、ナス、ゴーヤ、キュウリ、はつか大根などを育てており、当番の子どもが水やりをして野菜の成長する様子を観察している。 クッキング保育では未満児でもできる作業を考え、ピザやポテトサラダ、おにぎり、蒸しパン、ちらし寿司、パフェ等、さまざまな料理を作り食べる経験をしている。2歳児までの保育園であるが、食育活動がとても盛んに行われており、未満児であってもできることを保育者が考え、子ども達が楽しめるよう工夫している。</p>		

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>手洗いやうがいとは自分でできるようになるよう、保育者が丁寧に援助している 子どもの健康については、年間保健計画の中で季節に合わせた月目標を立て、それを毎月室内のホワイトボードに記入し、目標を意識しながら保育にあたっている。子ども達には日々の手洗いやうがいを、援助しながら自分でできるように促している。また、鼻水の拭き方を知らせながら自分で拭けるように促したり、拭いたごみの捨て方を個別に知らせている。感染症の流行時は、保育者が子どもに向けて話をするとき意識的に感染症予防の話を盛り込んだりして子どもが関心を持てるよう配慮している。</p> <p>医療機関の協力を得て毎月全園児の健康診断を実施している 主治医の厚意で、健康診断を毎月0歳児だけでなく、1・2歳児も行い、園児全員の健康状態の把握をしている。健康診断の際は主治医から一人ひとりの健康について細かなアドバイスを得ている。歯科医の検診は年に2回実施されている。検診の時は歯磨き指導なども行なってもらい子ども達の虫歯予防に努めている。病院で処方された薬は保護者が薬ノートに記入して提出し、1回分を園で預かり投与している。</p> <p>保護者には保健日より健康に関する情報を伝え、SIDS予防策を徹底している 毎月の保健日より保護者に子ども達の健康についての情報を提供し、必要に応じた注意を呼び掛けている。SIDS(乳幼児突然死症候群)予防では、午睡チェックを行っており、0歳児は5分おき、1・2歳児は10分おきに各年齢の担当が子ども一人ひとりの呼吸と体位を確認し、細やかに様子を記録してフロア内で周知し、安全性を高めている。</p>		
8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当
評価項目8の講評		
<p>保護者の状況に柔軟に対応して子どもを預かっている 保護者の急な残業などや、就労以外の用事、リフレッシュなどの預かりにも応じている。仕事以外の預かりの時は急な災害や事故に備え、必ず連絡が取れる事を確認している。 保育参観では、1日に2～3組の保護者が一緒に参観することで保護者同士の交流ができる環境がある。保護者参加行事がないので、次年度以降は保護者同士が交流できる場を設ける意向もあり、保護者参加の行事についても検討をしている。</p> <p>保育参観や個人面談を実施して、保護者と園との間で子どもの姿や発達を共有している 保育参観時は、給食の時間に子どもの様子を見ながら給食を試食してもらい、保育者と保護者が子どもの様子について話し合い、子どもの成長や発達を園と家庭間で共有している。また、年1回行われる個人面談では子どもの園での様子や家庭での様子を伝えあっている。個人面談では保護者に伝える項目を決め、伝える内容に偏りがないようにしている。</p> <p>保護者との会話を日々するよう留意し、相談があったときは適任者が対応している 送り迎えの際は保護者と会話することを心掛けている。子どもに関する相談があった場合は、担当が相談対応をしたり、必要に応じて主任、園長が対応する等、内容によって適任者が対応している。</p>		

9 評価項目9		地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)	
評価		標準項目			
●あり ○なし		1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している		○非該当	
●あり ○なし		2. 園の行事に地域の方の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している		○非該当	
評価項目9の講評					
<p>地域の資源を活用して、子どもたちが様々な体験ができる機会を持っている</p> <p>区が募集する農園で芋ほり体験を実施しているほか、遠足では公園や水族館に出かけており、移動の際は電車やバスなどの公共交通機関を利用しており、これらの活動の中で地域資源を活用し、子ども達にさまざまな体験をする機会を設けている。</p> <p>高齢者や他園の子どもなど、地域の様々な人たちと触れ合う機会がある</p> <p>施設のお年寄りを園に招いたり、散歩の途中で施設に遊びに行くなど、地域の介護施設との交流がある。クリスマス会ではデイサービスの高齢者がサンタ役で来園してくれており、プレゼントを渡すなど子どもと触れ合っている。また、連携園からお店屋さんごっこに招待されることもあるなど、地域の様々な人たちと触れ合う機会がある。</p>					

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている
タイトル①	絵本に親しめるよう、読み聞かせを行ない、保護者への案内も丁寧に行なっている	
内容①	園では絵本の読み聞かせを大切に考え、月に2～3冊づつ、専門業者が推薦する絵本を購入し、活動の前後には手遊びと絵本の読み聞かせを行うようにしている。また、毎月絵本だよりを発行し、おすすめの絵本を紹介したり、家庭に絵本を貸し出すことも行なっている。絵本は玄関前のブラックボード(看板)に案内をして地域にも貸し出してあり、地域の子どもと保護者が絵本に親しむことができる環境づくりに取り組んでいる。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル②	保育の負担感がないよう保護者に寄り添い、支援の充実化に力を入れて取り組んでいる	
内容②	保護者支援の充実化に取り組んでいる。前年度は「手荷物の軽量化」や「登降園管理システムの導入」などで、持参に伴う保護者負担の軽減、登降園時の時間の大幅短縮を実現しており、今年度は「オムツの完全無償化」「毎日のタオル類の持参廃止」を実行し、園でオムツと手拭き口拭きタオルを用意し負担する事を開始している。また、保護者の急な残業などや、就労以外の用事、リフレッシュ目的での預かりにも応じている等、保護者の育児負担感を減じ、安心して就業し保育園に預けることができるよう配慮した支援に取り組んでいる。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	5-1-4	職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる
タイトル③	「働き方改革宣言書」を作成して就業環境の改善に取り組んでいる	
内容③	職場環境については「TOKYO働き方改革宣言企業」の取り組み参加し、「働き方改革宣言書」を作成して長時間労働の削減や年次有給休暇等の取得促進に取り組んでいる。目標とする有給休暇取得率を定め、短時間正規社員の採用やテレワークの導入等、働きやすい環境づくりを推進しており、職員重視の姿勢を持ち、意欲的に就業環境の改善に取り組んでいる。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	少人数でワンフロアの特徴を生かし、子ども個々の様子を職員間で共有し、連携した保育が行われている
	内容	毎月の会議での保育の計画や振り返りは職員全員で行い、日々の引き継ぎも保育にあたる職員全員で子どもを待たせることもなく行なっている。午睡のチェックも声を掛け合っている。活動ではリズムや歌、パネルシアターなどを実施しており、準備や環境づくり時の保育者の連携が素晴らしい。子どもが発した言葉も大切に優しく応え、子どもと保育者が一体となり、活動を楽しむ雰囲気づくりがされている。子どもたちが楽しく、集中して活動に取り組む事ができるよう、職員皆が上手な声かけでその環境をつくりあげている。
2	タイトル	家庭的な雰囲気があり、職員は前向きに、明るい笑顔で仕事をする姿を子どもたちに見せている
	内容	職員の保育に対する姿勢が前向きで、笑顔で明るい声掛けをしており、保育者自らが各自楽しそうに子どもたちと過ごしている。活動では普段の保育でできないことを毎月考え実施している。「ワクワクドキドキ」の体験ができる案を皆で出し合い、これまでウォーターベッドやカーリング、カーリング、そり滑り、泥んこ遊びなどが実施されている。保育園が「ひとつの家」のように職員同士が仲良くすることを大切に考えて園運営をしており、小さな職場でもあり、訪問時も職員同士の仲が良く家庭的な運営がされていることが印象的であった。
3	タイトル	今ある環境を活かして、子どもたちがさまざまなことを体験できるよう工夫して保育に取り組んでいる
	内容	毎日の活動では天気の良い日には基本的に公園へ行き、外気に触れながら身体を動かして遊んでいる。近隣には色々な公園があり、季節や目的によって行く場所を選び、子どもの姿や目的にあった遊びを楽しんでいる。また、園舎前面のウッドデッキでは、夏のプールやブランコ、シャボン玉遊びなどを実施しているほか、プランターでの家庭菜園やテーブルを出しおやつを食べる等、スペースを有効に活用して保育をしている。園舎は決して広いとは言えないが、今ある環境の中で、職員がさまざまな工夫をして子どもがたくさん体験ができるよう取り組んでいる。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	園運営に関する中長期の展望を計画化することなどを期待したい
	内容	園運営に関する長期的な展望やビジョンなどは職員に周知されている。これを計画として可視化できるとさらによいため中長期計画の策定を検討することを勧めたい。また、園運営に関してはオープンに話し合いが持たれ、情報共有の上で職員からの意見や提案がされている。年度の実施事項は事業計画に記載されているため、総括から課題出し、次期計画策定まで事業計画書、事業報告書で連動させることができると事業運営のPDCAも行ないやすくなるものと考えられる。
2	タイトル	室内環境は工夫されている点も多く、今後もより一層の工夫でさらに保育環境を高めてゆくことを期待したい
	内容	訪問時の視察では職員一人ひとりが子どもの気持ちを尊重し、子どもの気持ちに寄り添った関わりが行われており、子どもが自ら行動したくなるような促しや子どもの行動を見守るような働きかけが多くみられた。人的な部分は評価したい点であった。室内環境でもさまざまな工夫が見られた。生活の中で子ども自身が選んだり、活動し始められたりできる環境に一層の工夫もあるとさらに良いと思われた。また、着替え時のプライバシーなどもスペースの制約がある中ではあるが、今後も留意して今以上の環境づくりに取り組んでほしい。
3	タイトル	マニュアルが整備されていない業務手順については、優先順位をつけて整備に取り組むことを期待したい
	内容	園内で業務の手順を決め全体会議などで共有している。また、園内研修や訓練により安全確保に関わる対応方法などを共有している。ただし、マニュアル化されていない部分があることは留意が必要である。内部で手順を共有しており、少人数の職場でもあるため、現場において手順が浸透していることは推察できるが、リスクマネジメントの一環として、特に安全確保に関わる部分は、確立している方法についてのマニュアル化、手順の明確化を勧めたい。